

研究結果報告書

天竺徳兵衛のみたシャム

所属：チュラロンコーン大学 文学部

役職：助教授

氏名：メータセート・ナムティップ

本研究は、日本のタイイメージ表象の原点とも言える、江戸時代の天竺徳兵衛のシャム見聞記を、同時代資料と比較照合しながらタイ側の視点から検証するものである。本研究によって、日本におけるシャム認識の再検討および、タイイメージの変遷をたどることができる。

タイと西洋の資料との照合により、徳兵衛の見聞記に描かれている事柄のほとんどが実在の事物であり、大きく次の3つのカテゴリーに分類できた。

1. 他の同時代の朱印船資料と一致し史実として認められる事柄。日本からシャム国までの航路、船の構造、船員の構成、シャムの産物など日本人船員に馴染みのあるものなど。多数の先行研究でも検証済みの事物。

2. 地理的な誤りや天竺の呼称が付与されているためにこれまで出鱈目な記述として扱われてきたが、今回、改めてシャムに実在するものと確認できたもの。例えば、シャム国内の風土、首都アユタヤに関する記述。シャム国一の長者の話、鳳凰や龍（実はワニ）として語られた珍獣のエピソード等。

3. 徳兵衛個人の実体験または現地の日本人にまつわる不思議な伝承。例えば、経文を刻んだ「たらよの葉」を日本に持ち帰った話と雨龍（ワニ）の神通力に関するエピソード。

また、この見聞記には、当初から植民地支配の調査目的を持って当地に赴いた西洋人がまとめた報告書と違い、シャムの政治経済事情など植民地政策に必要な情報がまったく記されていない。その上、西洋の文献が渡航当時から直後に著されたのに対し、徳兵衛の見聞記は長い年月を経てかなり高齢の時に記憶を頼りに書かれたため、誤認や記憶の曖昧さに加え、江戸時代の漂流記全般にも共通する、時空間の歪曲や脚色表現も見られる。この点には、東南アジア地域を天竺の一部として見なす当時の日本人における対外認識、いわゆる三国世界観の影響が見られる。

徳兵衛の見聞記は、事実をベースにしながら、その描写に天竺の呼称及び仏教説話が使われるなど、史実とちがった創作的な記述が織り交ぜられたため、歴史資料としての信憑性を欠くものとされて来た。しかし、鎖国時代の日本において唯一シャムを直接見てきた当事者が語る貴重な情報である。そこには、鎖国後の日本人が実際訪れることのできなない、物語の中の「はるかなる天竺」が創りあげられ、後代の文学に「天竺なるもの」として受け継がれていく。それがタイイメージの一つである仏教の国としてのイメージにもつながって行ったのだろう。

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

題名 : 「『天竺徳兵衛物語』における仏教文学の影響」
発表者 : メータセート・ナムティップ
会議名 : 「第8回タイ国日本研究学術大会」
日時 : 2014年12月18日
場所 : バンコク (タマサート大学)

題名 : 「天竺徳兵衛のみたシャム」
発表者 : メータセート・ナムティップ
会議名 : 国際シンポジウム「グローバル化する世界における日本語・
日本学研究」
日時 : 2015年1月27日
場所 : 仙台(東北大学)

題名 : 「『天竺徳兵衛物語』におけるシャム表象」
発表者 : メータセート・ナムティップ
会議名 : 「第6回大阪大学-チュラーロンコーン大学日本文学
国際研究交流集会」
日時 : 2015年6月27日
場所 : 大阪 (大阪大学)

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

題名 : 「『天竺徳兵衛物語』における仏教文学の影響」 (タイ語)
“อิทธิพลของวรรณกรรมพุทธศาสนาในเท็นจิกุ โทะกุเบ โมะโนะงะตะริ”
発表者 : メータセート・ナムティップ
掲載雑誌 : 第8回タイ国日本研究学術大会論文集
掲載時期 : 2015年3月 (pp. 121-135)

題名 : 「『天竺徳兵衛物語』におけるシャム表象」 (日本語)
発表者 : メータセート・ナムティップ
掲載雑誌 : 「日本研究論集」
掲載時期 : 2016年3月(予定)

書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等)